

ダース考

ダース・ベイダーも夜は寝るのだろうか。

二週間ほど前にその考えが浮かんで以来、ずっとダース・ベイダーのことを考えつづけている。

数々の悪の執務を終えて、一日の終わりに自室に下がるダース・ベイダー。それはどこにあるのだろう。デス・スターの中だろうか。それとも大きな宇宙船の中か。広さはどれくらいだろう。やはり偉いのだから、最低三十畳ぐらいはあるような気がする。それともスペースの限られた宇宙船内ゆえ、案外つましく六畳ぐらいだつたりするのだろうか。インテリアはやつぱり黒で統一しているのだろうか。壁紙も黒。天井も黒。カーペットも黒。いやカーペットじやない気がする。たぶん黒のリノリウム。もしくは大理石。黒のデスク。黒の椅子。カーテンは、カーテンはたぶんない。

悪の執務を終えて、一日の終わりに自室に下がるダース・ベイダー。自動ドアが背後で

シユツと閉まる。一人になった瞬間、何を考えるだろうか。疲れたな、と一瞬でも考えるだろうか。ふつと溜め息をつくだろうか。いやしかしだース・ペイダーは常にぶしゅーつ、ぶしゅーつ、と呼吸しているのだ。溜め息をついてもぶしゅーつ、ぶしゅーつに紛れて聞こえない、たぶん。

執務を終えてダース・ペイダーは自室に下がる。黒マントを脱いでハンガーにかける。手袋を取つて台の上に置く。ブーツも脱ぐだろうか。マントの下に着ている、あの鎧みたいなものも脱ぐだろうか。脱ぎながら、何を考えるだろう。私たちが夜、服を脱ぎながらほんやりと心をさまよせる、そんな瞬間がダース・ペイダーにもあるのだろうか。あるとすれば、それはデス・スターの完成の遅れを咎める悪の提督と無能な部下の板挟みについていることについてだろうか。あるいはジェダイだった頃の思い出だろうか。それともそんな人間らしい感情はどうの昔にくなくて、空っぽの心に、ただぶしゅーつ、ぶしゅーつという呼吸音が響いているだろうか。

そしてあのヘルメット。あれは顔と一緒に化したものとばかり思つていたが、じつは脱げるものであることを私たちは知つている。下には普通の人間の顔があつた。一日じゅうヘルメットをかぶつて、自分の呼吸音を聞く気分はどんなだろう。中は蒸れないだろうか。汗や顔の脂で、内側がぬるぬるしないだろうか。数々の悪の執務を終えて自室で一人にな

「……」



つて、ダース・ベイダーはヘルメットを脱ぐだろうか。一日の终わりに初めて顔に頭に涼しい外気を感じて、やっと人心地がつくだろうか。汗ばんだ顔や頭を洗うだろうか。そして脱いだヘルメットを横に置いて、眠りにつくだろうか。

それともマントも手袋もブーツも脱がず、ヘルメットも取らずに立ったまま眠るだろうか。あるいは全身がサイボーグ化されているので、もはや眠る必要もなく、休むことなく悪の執務に従事しているだろうか。

ところで、つい先日会った人によると、ダース・ベイダーが登場するときに必ずかかる、あのテーマ曲には歌詞があるのだそうだ。

ダース・ベイダー こわい
ダース・ベイダー くろい